



J F Eホールディングス株式会社

2021年3月期 第3四半期 決算説明会（インベスターズ・ミーティング）

2021年2月9日

登壇

司会：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。これより、JFEホールディングスのインベスターズ・ミーティングを開催させていただきます。

それでは、初めに寺畑代表取締役副社長より、ごあいさつ申し上げます。

寺畑：副社長の寺畑でございます。

本日はご多用の中、また、新型コロナウイルス感染拡大がまだまだ収束しない中ではございますが、弊社のインベスターズ・ミーティングにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から弊社に対して格別なご関心をお寄せいただき、この場をお借りして、あらためて御礼を申し上げます。

さて、これまでインベスターズ・ミーティングは、電話会議にて開催してまいりましたが、今回よりWeb会議による開催とさせていただきます。

それでは、本日発表いたしました、第3四半期決算および業績見通しの詳細につきまして、専務執行役員の田中よりご説明を申し上げます。ご質問は後ほど一括してお受けいたします。

それでは、よろしくお願いいたします。

田中：田中でございます。

それでは、本日、弊社のホームページに掲載いたしましたインベスターズ・ミーティング資料に沿って私よりご説明をいたします。

それでは、3ページから、JFEグループの第3四半期の決算の実績からご説明します。



2020年度 第3四半期決算概要

JFEホールディングス

JFE

上期後半以降の鋼材需要と鋼材市況の回復、収益改善に向けた取り組みの着実な実行により、第3四半期事業利益は531億円（前年同期比+502億円）と大幅に改善した

(億円)	2019年度（実績）		2020年度（実績）		増減 4-12月累計
	10-12月	4-12月累計	10-12月	4-12月累計	
売上収益	9,202	27,915	8,261	23,184	▲4,731
事業利益	29	520	531	▲611	▲1,131
金融損益	▲31	▲94	▲30	▲94	0
セグメント利益	▲1	426	501	▲706	▲1,132
個別開示項目	-	-	-	-	0
税引前利益	▲1	426	501	▲706	▲1,132
税金費用・非支配持分 帰属当期利益	▲48	▲156	▲140	9	165
親会社の所有者に帰属 する当期利益	▲50	269	360	▲696	▲965

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

4

4 ページ目をご覧ください。2020年度の第3四半期の決算の概要です。

上期の後半以降の鋼材需要と鋼材市況の回復、それから収益改善に向けた取り組みの着実な実行によりまして、第3四半期だけを取り出した事業利益は531億円の黒字となりました。

4-12月の累計の数値がその右側にありますが、売上収益は2兆3,184億円で、前年と比較いたしますと17%の減収となりました。

事業利益は、先ほど申しあげましたように、第3四半期で黒字に転換しましたが、上期の赤字が大きく、累計では611億円の損失となりました。

セグメント利益も同様に、706億円の損失、当期利益も696億円の損失というのが第3クォーターまでの累計の実績です。前年度の同期と比較いたしますと、損益項目に関しましては、1,000億円内外の悪化となりました。



2020年度 第3四半期決算概要 セグメント別

JFEホールディングス

JFE

(億円)	2019年度 (実績)		2020年度 (実績)		増減 4-12月累計
	10-12月	4-12月累計	10-12月	4-12月累計	
売上収益					
鉄鋼事業	6,527	20,058	5,802	16,075	▲3,983
エンジニアリング事業	1,258	3,647	1,292	3,512	▲135
商社事業	2,718	8,293	2,249	6,766	▲1,527
調整額	▲1,301	▲4,084	▲1,082	▲3,169	915
合計	9,203	27,915	8,261	23,184	▲4,731
事業利益 (A)	30	520	531	▲611	▲1,131
金融損益 (B)	▲31	▲94	▲30	▲94	0
セグメント利益					
鉄鋼事業	▲64	113	343	▲1,019	▲1,132
エンジニアリング事業	76	195	109	196	1
商社事業	66	212	65	137	▲75
調整額	▲81	▲96	▲16	▲21	75
合計 (A+B)	▲1	426	501	▲706	▲1,132

5

これをセグメント別に見ましたが、次の5ページです。

売上収益に関しましては、全体で4,700億円の減収となりました。鉄鋼ならびに商社事業において、上期における需要産業の大幅な活動水準の低下に伴う数量減や価格の下落等といった要因で減収となりました。

一方で、セグメント利益の合計は4-12月の累計で706億円の損失です。

鉄鋼事業は10-12月、第3クォーターで343億円の黒字とですが、累計では1,019億円の損失となりました。

一方、エンジニアリング事業は、196億円ということで、前年と比較いたしまして、ほぼ同水準という利益水準になりました。

それから、商社事業ですが、こちらも137億円となり、これは前年と比較いたしますと75億円の減益ですが、10-12月の第3クォーターだけをご覧いただきますと、ほぼ前年並みのところまで回復してきました。



2020年度 業績見通し（対前回）

JFEホールディングス

JFE

鉄鋼事業における**需要回復のさらなる進展**や**鋼材市況の大幅改善**に加え、エンジニアリング事業・商社事業の収益改善もあり、年間の事業利益は**+580億円の改善**を見込む

(億円)	前回見通し (11/9) 年間	今回見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益	31,700	14,922	17,478	32,400	700
事業利益	▲900	▲1,143	823	▲320	580
金融損益	▲150	▲64	▲66	▲130	20
セグメント利益	▲1,050	▲1,207	757	▲450	600
個別開示項目	—	—	220 [※]	220	220
税引前利益	▲1,050	▲1,207	977	▲230	820
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	50	150	▲300	▲150	▲200
親会社の所有者に帰属する 当期利益	▲1,000	▲1,057	677	▲380	620

※JFEエンジニアリング 土地売却益等

7

それでは、次に年度の業績見通しについてです。

7 ページ目をご覧ください。

鉄鋼事業におきます需要回復のさらなる進展、さらには市況の大幅改善に加えて、エンジニアリング事業、さらに商社事業、各事業セグメントが収益改善いたしてありまして、年間の事業利益の見通しは 320 億円の損失の見込みですが、前回の公表と対比いたしますと、580 億円の改善を見込んでおります。

売上に関しましては、700 億円の増収で 3 兆 2,400 億円の見通しです。また、セグメント利益についても 600 億円、前回公表から改善の 450 億円の損失を見込んでいます。

それから、当期利益は、前回の見通しから 620 億円改善して 380 億円の損失という見通しですが、セグメント利益と当期利益の間に個別開示項目として 220 億円の益を今回、見通しの中に織り込んでいます。

こちらにつきましては、JFE エンジニアリングにおける土地の売却益約 280 億円から、スチール等における設備更新に伴う旧設備の遊休化などに伴う減損損失約 60 億円を差し引いた形で、個別開示項目として、今回 220 億円を第 4 クォーターで計上する予定です。



2020年度 業績見通し（対前回）セグメント別

JFEホールディングス

JFE

(億円)	前回見通し (11/9) 年間	今回見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益					
鉄鋼事業	22,000	10,272	12,328	22,600	600
エンジニアリング事業	4,900	2,219	2,681	4,900	0
商社事業	9,300	4,517	4,883	9,400	100
調整額	▲4,500	▲2,086	▲2,414	▲4,500	0
合計	31,700	14,922	17,478	32,400	700
事業利益 (A)	▲900	▲1,143	823	▲320	580
金融損益 (B)	▲150	▲64	▲66	▲130	20
セグメント利益					
鉄鋼事業	▲1,350	▲1,362	562	▲800	550
エンジニアリング事業	210	87	133	220	10
商社事業	130	72	98	170	40
調整額	▲40	▲4	▲36	▲40	0
合計 (A+B)	▲1,050	▲1,207	757	▲450	600

8

次のページは、セグメント別でございます。

売上については、全体で700億円の増収と申し上げましたが、ご覧のとおり鉄鋼で600億円、商社で100億円という内訳です。

セグメント利益については、600億円の改善ですが、こちらについても鉄鋼で550億円、エンジニアリングで10億円、商社で40億円という内訳となっております。



2020年度 業績見通し（対前年度）

JFEホールディングス

JFE

下期の事業利益は**823億円と大幅に黒字化**、年間では**▲320億円**を見込む

(億円)	2019年度 実績 年間	2020年度見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益	37,297	14,922	17,478	32,400	▲4,897
事業利益	378	▲1,143	823	▲320	▲698
金融損益	▲125	▲64	▲66	▲130	▲5
セグメント利益	253	▲1,207	757	▲450	▲703
個別開示項目	▲2,388	-	220 [※]	220	2,608
税引前利益	▲2,134	▲1,207	977	▲230	1,904
税金費用・非支配持分帰属当期利益	157	150	▲300	▲150	▲307
親会社の所有者に帰属する当期利益	▲1,977	▲1,057	677	▲380	1,597

※JFEエンジニアリング 土地売却益等

9

次に、同じ業績見通しを前年度との比較で見ましたものです。

こちらに関しては、今回の見通しの数値は先ほどと同じですけれども、前年と比較すると、事業利益は、約700億円の悪化の見通しです。

ただ、当期利益に関しましては、昨年大きな減損損失の計上がありましたので、当期利益水準380億円の赤字ではありますが、前年と比較しますと1,600億円の改善を見込んでおります。



2020年度 業績見通し（対前年度）セグメント別

JFEホールディングス

JFE

(億円)	2019年度 実績 年間	2020年度見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益					
鉄鋼事業	26,813	10,272	12,328	22,600	▲4,213
エンジニアリング事業	5,122	2,219	2,681	4,900	▲222
商社事業	10,841	4,517	4,883	9,400	▲1,441
調整額	▲5,480	▲2,086	▲2,414	▲4,500	980
合計	37,297	14,922	17,478	32,400	▲4,897
事業利益 (A)	378	▲1,143	823	▲320	▲698
金融損益 (B)	▲125	▲64	▲66	▲130	▲5
セグメント利益					
鉄鋼事業	▲87	▲1,362	562	▲800	▲713
エンジニアリング事業	231	87	133	220	▲11
商社事業	270	72	98	170	▲100
調整額	▲159	▲4	▲36	▲40	119
合計 (A+B)	253	▲1,207	757	▲450	▲703

10

こちらは、今の表をセグメント別に展開したのですが、こちらについては説明を割愛させていただきます。

財務健全性維持・収益改善に向けた取り組み状況

◆ JFEグループ全体：資産圧縮

- 政策保有株式や土地の売却※等により
累計2,000億円の資産圧縮
を見込む（対前回見通し比+300億円）

※ JFEエンジニアリング 土地売却 等

- 20年12月までに**累計約1,600億円***
の圧縮を実行



◆ 鉄鋼事業：以下の取り組みを着実に推進

- **国内設備投資圧縮**：意思決定ベースで**1,300億円**を圧縮
- **コスト削減**：減産コストアップ込みで**20年度に1,000億円**を削減
- **販売価格改善**：主原料コスト、諸物価等の価格反映の継続
適正な商品価値・付加価値に基づく価格体系の再構築

11

次に、11 ページ目であります。財務健全性維持、それから収益改善に向けた取り組み状況であります。

グループ全体の資産圧縮については、政策保有株式や土地の売却等により、19 年度からの累計 2,000 億円の資産圧縮を図ってまいります。

前回は 1,700 億円と申し上げておりましたので、今回これに 300 億円上乗せをしたということになります。上乗せになったのは、先ほど来申し上げております、JFE エンジニアリングにおける土地売却が中心です。

昨年と 12 月までの内訳を右側に掲載しておりますが、合計で 1,550 億円、約 1,600 億円の圧縮を既に実行しており、4Q 累計で 2,000 億円まで達成する予定です。

下段、これらは以前から申し上げていることではありますが、鉄鋼事業におきまして、国内の設備投資については、意思決定ベースで 1,300 億円の圧縮、さらには減産コストアップ込みで 1,000 億円のコスト削減を計画しております。

また、販売価格の改善として主原料コスト、諸物価等の価格反映を継続的に取り組むということに加えて、いわゆるエクストラについては、適正な商品価値・付加価値に基づく価格体系の再構築に取り組んでおります。



キャッシュフローの状況

JFEホールディングス

JFE

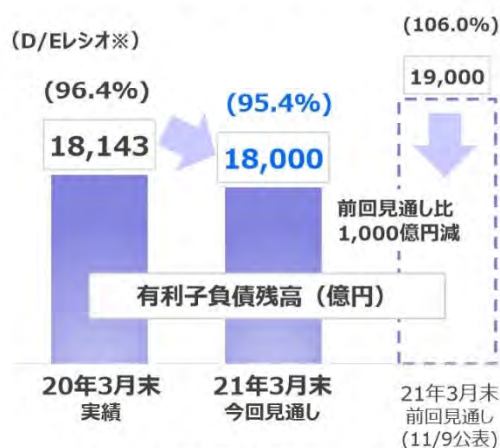
収益の回復や資産圧縮の上積みにもなうキャッシュフロー改善により、
21年3月末の有利子負債残高は前年度末を下回る1兆8,000億円を見込む
(D/E 95.4%)

2020年度 連結キャッシュフロー見通し

(億円)

原資	用途
減価償却費 および償却費 2,400	当期純損失 380
資産圧縮 1,650	設備投資 および投融資 3,900
運転収支他 370	有利子負債 140

有利子負債残高とD/Eレシオ



※D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本
但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、
格付機関の評価により資本に算入

12

こうした資産圧縮等を受けまして、12 ページにキャッシュフローの状況を整理してございます。

先ほどご説明しましたように、収益の大幅な回復や資産圧縮の上積みに伴いまして、キャッシュフローは大幅に改善をする見込みです。

この21年3月末の有利子負債残高は、1兆8,000億円程度と現在見込んでおります。右側のグラフに記載しております通り、1年前、20年3月末は、1兆8,143億円でしたので、前年よりも有利子負債は圧縮できるという見通しです。D/Eレシオに関しましても95.4%ということで、昨年よりも下がる見通しです。

前回、11月には、実は年度末の借入金残高1兆9,000億円と申し上げておりましたので、そこから1,000億円改善しております。

左側にキャッシュフローの見通しの簡単な表を掲載しております。前回から1,000億円改善した要因につきましては、前回公表で1,000億円と見込んでおりました当期純損失が、600億円程度改善

したということと、資産圧縮を 300 億円上乗せしたことがあげられます。設備投資、投融資も 100 億円ほどさらに支出を削減しました。

結果として、有利子負債残高が 1,000 億円改善して、今年度のフリーキャッシュフローは、赤字予想から黒字に転換し、大きく改善する予定です。



配当について

JFEホールディングス

期末の配当については、
鉄鋼事業を中心とした下期の大幅な収益の改善と、
来年度の業績動向を踏まえ、
1株につき10円（年間10円）とする案を
株主総会にお諮りする方針といたしました。

14

次に、配当についてです。

期末の配当につきましては、鉄鋼を中心に下期に大幅な収益の改善ができるということと、来年度の業績動向等を踏まえ、1株につき10円とする案で、株主総会にお諮りする方針といたしました。



2020年度 第3四半期決算

JFEスチール

JFE

	単位	2019年度					2020年度		
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	年間	4-6月	7-9月	10-12月
売上収益	億円	6,666	6,865	6,527	6,755	26,813	5,087	5,186	5,802
セグメント利益	億円	145	32	▲63	▲201	▲87	▲578	▲784	343
棚卸資産 評価差等除*	億円	225	▲8	87	▲91	213	▲348	▲334	143
単独 粗鋼生産量	万t	700	679	624	670	2,673	479	538	627
連結 粗鋼生産量	万t	736	713	659	700	2,809	509	568	659
単独 鋼材出荷量	万t	585	594	559	609	2,347	459	475	542
鋼材輸出比率 単独・金額ベース	%	39.9	42.1	39.7	44.4	41.5	44.2	40.2	40.3
鋼材平均価格	千円 /t	80.4	79.4	79.6	76.1	78.8	75.3	71.0	73.4
為替レート	円/ドル	110.7	107.6	108.8	109.4	109.1	107.7	105.9	104.8
期末為替レート	円/ドル	107.8	107.9	109.6	108.8	108.8	107.7	105.8	103.5

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キレオーバー、為替換算差を除いた損益

16

それでは、事業会社別の説明に移ります。まず、JFE スチールの第3四半期決算および業績見通しについてです。

16 ページをご覧ください。

第3四半期決算の主だったデータを掲載しております。

まずご覧いただきたいのはセグメント利益で、今年度は上期の大幅な赤字でしたが、10-12月は343億円と黒字に転換しました。

その下に、棚卸資産評価差等の一過性要因を除いた損益も表示しております。こちらについても10-12月で143億円と、黒字転換しました。19年度のクォーター別の数字と並べていきますと、セグメント利益については、昨年の7-9月期以来の黒字となり、また棚卸資産評価差等の一過性影響を除くと昨年の10-12月期以来の黒字です。

3クォーターの粗鋼生産627万トンで、1年前とほぼ同水準まで回復しました。19年の10-12月は、特に市況の低下に伴って生産を絞ったこともあり、前後の期に比べると減産基調ではありましたが、前年同期比、同水準の粗鋼レベルに回復してきました。



2019年度4-12月

JFEスチール

⇒2020年度4-12月 セグメント利益 ▲1,132億円内訳

新型コロナウイルスの影響による上期の数量減や国内外のグループ会社収益の悪化等により前年同期比では大幅な減益となった。
10-12月期は、鋼材需要や市況の回復、収益改善の取り組み等により、343億円の黒字となった。

JFEスチール	2019年度 4-12月	2020年度				増減
		4-6月	7-9月	10-12月	4-12月	
セグメント利益	113	▲578	▲784	343	▲1,019	▲1,132

(億円)

1. コスト	+760	・ 補修費・労務費を中心とした固定費削減 ・ 設備投資効果発現
2. 数量・構成	▲920	・ 需要低下に伴う数量減 （粗鋼量 2,003⇒1,644万t ▲359万t） ・ 品種構成悪化
3. 販価・原料	▲70	（鋼材トンあたり：▲500円） ・ 原料炭価格は下落も、国内外市況悪化によりスプレッド縮小
4. 棚卸資産評価差等	▲290	・ 棚卸資産評価差▲240（▲170→▲410） ・ 原料キャリアオーバー影響▲10（▲10→▲20） ・ 為替換算差▲40（▲10→▲50）
5. その他	▲612	・ 国内外グループ会社収益の悪化 他

17

2019年度4-12月と2020年度の4-12月損益比較の要因別内訳です。

昨年同期113億円の黒字から、今回1,019億円の赤字ということで、1,132億円の悪化となっておりますが、下に記載のとおりコスト削減につきましては、760億円のプラスとなり、年間1,000億円のコスト削減達成に向けて順調に進捗しています。

ただ、数量につきましては、360万トン程度の粗鋼減となり、品種構成の悪化も加わって、900億円以上のマイナスとなりました。さらに、スプレッドについては、70億円のマイナスですが、販価については国輸とも大きく下落している一方、原料炭のほうも価格が下落しており、相殺して70億円程度の影響となりました。

これに棚卸資産評価差等の290億円、さらにその他のところでは国内外でグループ会社、約400億円の悪化もあり、全体で1,100億円を超える悪化という内訳です。



足下の事業環境認識（国内）



- 需要先の活動水準の持ち直しにより、国内鋼材需要は総じて回復基調が継続
- 自動車生産はすでに前年同期並みの水準まで回復。他製造業向けも段階的な回復を見込む

【国内普通鋼材消費見通し】



出所：12月22日 経済産業省 鋼材需要見通し (FY20.1-3Q:推定実績,4Q:見通し)

分野	見通し概況
自動車	<ul style="list-style-type: none"> 国内自動車生産は10月以降は前年比プラスに転じ、完成車輸出も北米を中心に回復 コロナウイルス感染再拡大、世界的な半導体不足などの要因に注視が必要
造船	<ul style="list-style-type: none"> 新造船受注の低迷により手持ち工事は低位が継続。鋼材需要の回復には時間を要する
その他製造業	<ul style="list-style-type: none"> 建設機械、産業機械をはじめ活動水準は回復傾向、鋼材需要は段階的な回復を見込む
土木	<ul style="list-style-type: none"> 高水準の公共事業関係予算が確保される見通しから、引き続き堅調な鋼材需要を見込む
建築	<ul style="list-style-type: none"> 大型再開発案件や物流倉庫を除いて厳しい環境が継続も、設備投資の回復につれて今後は鋼材需要は緩やかな回復を想定

次に、足下の事業環境認識（国内）です。

需要先の活動水準は持ち直してありまして、国内鋼材需要は総じて回復基調であります。自動車につきましては、既に前年同期並みの水準まで回復し、他の製造業向けも段階的な回復を見込んでおります。

左側に鋼材消費見通しがありますけれども、ご覧のとおり、4Qの製造業向けは前年同期比マイナス1.9%、建築向けも6.1%マイナスではありますが、今年度上期に比べますと回復基調にあります。

右に分野別の記載がありますが、自動車については、10月以降、前年比プラスになっています。

ただ、造船については、今も受注は低迷しておりまして、回復には時間を要する見込みです。

それ以外の製造業については、特に建機、産機はじめ、活動水準については回復基調でありまして、段階的に回復するものと見込んでおります。

土木につきましては、公共事業関係の予算が高水準で確保されておりますので、引き続き堅調な鋼材需要を見込んでおります。

建築については、大型の開発案件や物流倉庫を除いて厳しい状況が続いておりますけれども、これから徐々に緩やかに回復はしていく想定でございます。



足下の事業環境認識（海外）

- 分野毎に濃淡はあるものの、**海外鋼材需要は総じて回復基調が継続**
- 需要回復に加え、各国ミルの供給余力が乏しいこともあり、**世界的に需給タイト化し鋼材市況は上伸**



分野	見通し概況
自動車	・各国、地域で回復基調 ・コロナウイルス感染再拡大、世界的な半導体不足などの要因に注視が必要
薄板	・足下は需給タイト化し市況も上伸 ・コロナウイルス感染再拡大、各国ミルの生産回復等による市況軟化リスクに注視が必要
造船	・世界的な船腹過剰やコロナ影響等で厳しい環境は継続も、今後段階的な回復を想定
エネルギー	・WTI原油価格は緩やかな回復基調も、鋼材需要の回復には時間を要す



海外につきましては、分野ごとに濃淡がございますが、総じて回復基調が継続していると見ております。

左側に各国の自動車の販売台数推移を並べておりますが、中国に加えてインドも大きく回復し、タイについてもかなり前年度水準に近づいてきております。インドネシアだけは、これらの国々に比べると、やや回復の足取りは重いですが、総じて回復基調であります。

右の表をご覧ください。薄板類については、足下は非常に需給がタイト化し、市況も大きく上がっております。右下に東南アジアのホットの価格レベルを並べておりますが、価格が非常に上昇している状況でございます。

造船につきましては、相変わらず厳しい状況が続いておりますが、今後、段階的な回復が想定できると考えております。

エネルギーについては、やはり緩やかに回復基調ではありますが、回復にはもう少し時間がかかるという見方でございます。



業績見通しの前提

粗鋼生産量見通し

- 国内外の鋼材需要回復の進展により、
20年度の単独粗鋼生産量は2,270万吨程度（下期1,250万吨程度）
を見込む（前回見通し比 **+20万吨**）

メタルスプレッド

- **主原料価格（1-3月）**
鉄鉱石：中国の活発な粗鋼生産等を背景に**前四半期に対し\$10程度上昇**
原料炭：中国以外の地域の堅調な需要や季節要因等を想定し、
前四半期に対し一定程度の価格上昇を見込む
- ⇒ **主原料コストの上昇分の確実かつ早期の価格反映**に取り組む
- **輸出黒皮スプレッド**：輸出鋼材市況の上昇をうけ**下期は回復を想定**
- **国内輸出トータルのスプレッド**は**前回見通し比+230億円の改善**を見込む

20

私どもの業績見通しの前提を20ページで整理してございます。

粗鋼生産量につきましては、国内外の需要回復の進展によって、前回公表の2,250万吨程度の見込みから、20万吨ほど増え、2,270万吨、下期では1,250万吨程度を想定しております。

次にメタルスプレッドについてです。

主原料価格のうち、鉄鉱石については足下、高止まりという状態ではありますが、1-3月については前四半期に対して10ドル程度の上昇を見込んでおります。一方で、原料炭については、足下、価格が急騰しております。1-3月の価格はまだ確定しておりませんが、前四半期に対して一定程度の価格上昇を見込んでおります。中国以外でも堅調に需要が回復しており、また季節要因も想定しています。

いずれにいたしましても、主原料コストの上昇分については、早期に価格反映するよう取り組んでおります。

輸出黒皮スプレッドに関しては、市況が大幅に上がっておりますので、下期については大きく回復することを想定しており、全体でいうと、230億円ほどスプレッドでは改善を見込めると考えています。



JFEスチール 2020年度 業績見通し

JFEスチール

	単位	2019年度 年間 実績	2020年度					2020年度 年間 (前回) 見通し
			上期 実績	下期		年間 見通し		
				10-12月 実績	1-3月 見通し		見通し	
売上収益	億円	26,813	10,272	5,802	6,525	12,328	22,600	22,000
セグメント利益	億円	▲87	▲1,362	343	218	562	▲800	▲1,350
棚卸資産評価差等除き※	億円	213	▲682	143	148	292	▲390	▲900
単独粗鋼生産量	万t	2,673	1,017	627	626 程度	1,253 程度	2,270	2,250 程度
連結粗鋼生産量	万t	2,809	1,077	659	653 程度	1,313 程度	2,390	
単独鋼材出荷量	万t	2,347	934	542	574 程度	1,116 程度	2,050	
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	41.5	42.2	40.3	46	43	43	
鋼材平均価格	千円/t	78.8	73.1	73.4	78	76	75	
為替レート	円/ドル	109.1	106.8	104.8	105	105	106	106 程度

※ セグメント利益から、棚卸資産評価差等（棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差）を除いた損益

21

21 ページに、全体の業績見通しの数値を整理しています。

鉄鋼のセグメント利益は、下期で562億円の黒字を見込んでおりますが、年間では800億円のマイナスでございます。

それから、棚卸資産評価差等除きについては、年間で390億円の赤字の見込みです。下期でいうと、3Q、4Qそれぞれでほぼ140億円から150億円ぐらい、同じぐらいのレベルでございます。290億円ほどの黒字という見込みでございます。



2020年度 前回見通し⇒今回見通し

JFEスチール

セグメント利益 + 550億円内訳

自動車分野を中心とした需要の回復に伴う粗鋼生産量の増加、鋼材市況の回復、グループ会社収益の改善等により、前回公表比で550億円の改善を見込む

JFEスチール	2020年度 前回	2020年度 今回	(億円) 増減
セグメント利益	▲1,350	▲800	+550
1. コスト	±0		
2. 数量・構成	+40	・自動車分野を中心とした需要回復に伴う数量増 (粗鋼量 2,250⇒2,270万t +20万t)	
3. 販価・原料	+230	(鋼材トンあたり：1,100円) ・輸出を中心とした市況好転に伴い、スプレッド改善	
4. 棚卸資産評価差等	+40	・棚卸資産評価差+70 (▲450⇒▲380) ・原料キャリアオーバー影響▲20 (+40⇒+20) ・為替換算差▲10(▲40⇒▲50)	
5. その他	+240	・国内外グループ会社収益の改善 他	

22

こうした前提で、22 ページに、前回見通しと今回見通しで 550 億円の改善を見込んでおります。

まず、20 年度のコスト削減はつきましては年間 1,000 億円を見込んでおり、前回、今回変わらずということですが、数量につきましては粗鋼 20 万トン増に伴いまして 40 億円のプラス。また、スプレッドは先ほど前提のところでも申し上げましたが、輸出の市況好転に伴いまして 230 億円のプラス。それから、棚卸資産評価差等で 40 億円のプラスとなる見込みです。

さらには、「その他」の 240 億円のうち、グループ会社収益の改善も 170 億円ほどのプラスで、これを入れまして 550 億円の改善という見込みです。



2020年度 セグメント利益 対前年度▲713億円内訳

JFEスチール

JFE

1,000億円のコスト削減達成を見込むものの、新型コロナウイルスの影響による上期の数量減、国内外のグループ会社収益の悪化等により、前年度比で悪化を見込む

JFEスチール	2019年度 実績	2020年度 見通し	増減
セグメント利益	▲87	▲800	▲713
1. コスト	+1,000	・ 補修費・労務費を中心とした固定費削減 ・ 設備投資効果発現 等	
2. 数量・構成	▲1,050	・ 需要低下に伴う数量減 (粗鋼量 2,673⇒2,270万t ▲403万t) ・ 品種構成悪化	
3. 販価・原料	±0		
4. 棚卸資産評価差等	▲110	・ 棚卸資産評価差▲160 (▲220→▲380) ・ 原料キャリアオーバー影響+90 (▲70→+20) ・ 為替換算差▲40(▲10→▲50)	
5. その他	▲553	・ 国内外グループ会社収益の悪化 他	

23

次のページは、前年度対比であります。

前年度と比較いたしますと、713億円の悪化になりますが、先ほど来申し上げておりますコスト削減年間1,000億円を達成見込みです。数量については、前回見通しに対して、今回見通しでは粗鋼量は20万トン増加しましたが、前年度に対しては400万トン程度の減産ということで、数量・構成差でマイナス1,050億円となり、コスト削減と数量・構成の二つが消し合う形になっています。

スプレッドについては、前回まで前年対比マイナスと申し上げておりましたが、今回見通しでは前回から230億円の改善を見込んでおり、前年並みと想定し、プラマイゼロというレベルになりました。

棚卸資産評価差等で110億円のマイナスがございます。その他のところでは、グループ会社の収益は当初見込みよりは大幅に改善してきてはおりますが、それでも430億円ほどがまだ前年よりも悪いということが効きまして、全体で700億円強の悪化でございます。



2020年度上期⇒下期

JFEスチール

セグメント利益 + 1,924億円内訳

自動車分野を中心とした需要の回復に伴う粗鋼生産量の増加、鋼材市況の回復、上期の棚卸資産評価損の解消等により、下期は562億円の黒字を見込む

(億円)

JFEスチール	2020年度			増減
	上期実績	下期見通し	年間見通し	
セグメント利益	▲1,362	562	▲800	+1,924
1. コスト	+150	<ul style="list-style-type: none"> 減産コストアップの縮小 補修費・労務費を中心とした固定費削減 		
2. 数量・構成	+460	<ul style="list-style-type: none"> 自動車分野を中心とした需要回復に伴う数量増 (粗鋼量 1,017 ⇒ 1,253万t +236万t) 		
3. 販価・原料	+180	(≒鋼材トンあたり：1,600円) <ul style="list-style-type: none"> 輸出を中心とした市況好転に伴い、スプレッド改善 		
4. 棚卸資産評価差等	+950	<ul style="list-style-type: none"> 棚卸資産評価差 +780 (▲580→+200) 原料キャリアオーバー影響 +140 (▲60→+80) 為替換算差 +30 (▲40→▲10) 		
5. その他	+184	<ul style="list-style-type: none"> 国内外グループ会社収益の改善 他 		

24

24 ページは、20 年度上期と下期のセグメント利益の比較です。

上期と下期では、セグメント利益 1,362 億円の大幅な赤字が 562 億円の黒字に転換し、1,900 億円ほど改善する見通しです。内訳はこの表のとおりであります。コストで 150 億円のプラス、それから数量は 230 万トン強増産になっているので 460 億円のプラス。スプレッドも、輸出を中心とした市況回復によりまして 180 億円ほどのプラスを見込んでいます。

さらに、上下比較で大きいのは、棚卸資産評価差等の 950 億円のプラスですが、特に右側の欄に棚卸資産評価差等 +780 億円というコメントを記載しております。これは今年度、上期については低価法による大きなマイナスを計上せざるを得なかったのですが、下期に市況の回復等に伴いまして、この赤字が解消されるということで、その赤黒、往って来いで、ほぼこの棚卸資産評価差等相当の低価法の改善という影響が大きく効いています。

これにグループ会社の損益改善、上下でも 240 億円ほどあり、これらによって下期の大幅な改善を見込んでいます。



21年度のさらなる収益改善に向けた取り組み

JFE

20年度下期の棚卸資産評価差等を除くセグメント利益：292億円の黒字

- ▶ 需要回復の進展により、**単独粗鋼生産量は1,250万 t 程度**
- ▶ 粗鋼生産の増加、輸出を中心としたスプレッドの改善、コスト削減等により、下期は黒字に転換
- ▶ グループ会社損益は前年度比7割程度の水準

以下の取り組みを通じ、21年度に単体黒字化を達成し、確実な収益拡大を図る

◆主な取り組み

□ 最適生産の継続	<ul style="list-style-type: none"> • 需要に応じたコストミニマム操業による最適生産の継続
□ コスト削減の実行	<ul style="list-style-type: none"> • 新規設備投資効果や固定費削減によるコスト削減 (倉敷新連続鑄造機、福山第3コークス炉B回 等)
□ 販売価格の改善	<ul style="list-style-type: none"> • 主原料コストの反映早期化、諸物価上昇等の反映継続、全品種を対象としたエキストラの総点検 等

◆外部環境（変動要素）

- 鋼材需要：新型コロナウイルスの影響や、分野毎の需要回復の動向
- 市況：主原料価格や鋼材市況の今後の動向 等

25

21年度に向けてということですが、先ほど申しあげましたように、この下期のセグメント利益は評価差等を除いて292億円の黒字であります。粗鋼量が1,250万トン、グループ会社の損益も前年度比7割程度の水準までできています。

これは従来申しあげていることでありますけれども、これらを前提に最適生産を継続していくこと、それから来年度新たに新規稼働設備があることや、固定費削減等により、コスト削減をさらに実行していきます。販売価格に関しましても、主原料コストの早期反映、ならびにエキストラの総点検等々によりまして、上乗せを図っていくということを考えてございます。

下に記載しておりますが、変動要素としては鋼材需要、コロナの影響であるとか、分野ごとの需要回復動向はどうか、ということ等が挙げられます。また、足下、主原料価格、市況が大幅に上がってございます。鋼材市況も、今は良い状態ですが、今後どうなっていくか、等といった変動要素がございまして、コスト削減等の上乗せを図ることで、21年度はスチール単体で黒字化をなんとかして達成したいという思いでございまして。



2020年度 業績見通し

JFE

損益概況

▶ コロナ状況下においても**セグメント利益は前年度並みを達成**する見通し。(対前回公表+10億円)

安定的な収益の確保を継続

- **国内の環境関連分野**、および鋼構造関連を中心とした**社会インフラ分野は引き続き堅調**
- 新型コロナウイルスの影響により、一部の海外案件でプロジェクト中断や工期変更等が発生するものの、損益への影響は限定的

(億円)	19年度実績		20年度見通し (今回)		増減 (対前年度)		20年度 見通し (前回) 年間
	下期	年間	下期	年間	下期	年間	
受注高	2,235	4,130	2,011	5,000	▲224	870	5,000
売上収益	2,733	5,122	2,681	4,900	▲52	▲222	4,900
セグメント利益	112	231	133	220	21	▲11	210

対前年度						
【年間】	・受注高	+870	環境、社会インフラ分野等の公共工事を中心に大型案件の受注増			
	・売上収益	▲222	工事量減および新型コロナ影響により減少			
	・セグメント利益	▲11	売上収益減により減少			
対前回						
【年間】	・セグメント利益	+10	コストダウンによる改善			

27

次に、エンジニアリングであります。

27 ページですけれども、コロナの状況下においても、ほぼほぼ昨年並みの損益を達成ということでありまして、セグメント利益につきましては、前回よりはコスト削減等によりまして、10 億円上乗せの 220 億ということがございます。受注についても、予定どおり 5,000 億円はいけそうだと

いうこととございます。



2020年度 業績見通し

JFE

損益概況

- ▶ 地域・分野によって活動水準に濃淡はあるものの、下期に入り国内外において**需要が回復**しており、年間セグメント利益は**対前回見通し+40億円**を見込む
 - ・ 国内は、自動車向けを始めとして**全体の活動水準は上期を上回る**
 - ・ 海外は、中国、アセアンの**自動車関連等において需要が回復**、北米では**エネルギー分野の不透明感が残るものの、建材分野は引き続き好調を維持**

業績見通し

(億円)	19年度実績		20年度見通し (今回)		増減 (対前年度)		20年度見通し (前回)	
	下期	年間	下期	年間	下期	年間	下期	年間
売上収益	5,266	10,841	4,883	9,400	▲383	▲1,441	4,783	9,300
セグメント利益	124	270	98	170	▲26	▲100	58	130

【年間見通し】

(対前年度) 下期に入り、自動車等の活動水準回復に伴い、収益は大幅に回復するものの、上期における新型コロナウイルスの影響による国内外鋼材需要の落ち込みが大きく、減収減益の見込み。

(対前回) 下期以降、自動車を始めとして想定以上に国内外の需要回復が見られたことから、セグメント利益は170億円(対前回見通し+40億円)を見込む。

29

次に、JFE 商事について、29 ページです。

これは鉄鋼と同じように、下期に入って活動水準の回復がございまして、前回の見通しよりも40億円改善の170億円と、今回、見てございます。

状況としては、鉄鋼でご説明した内容と同様です。



JFEグループのエコプロダクト（環境配慮型商品の開発）

JFE

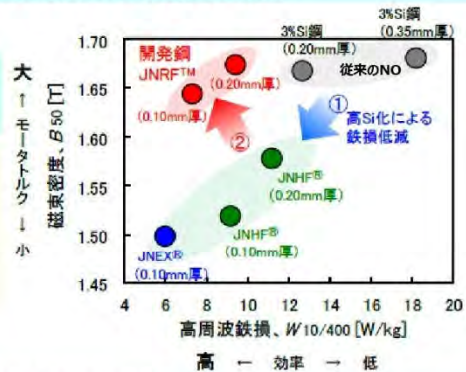
環境配慮型商品の開発を通して環境社会実現に貢献

(20年12月3日リリース)

高速モータ用Si傾斜磁性材料『JNRF™』を開発

～高周波低鉄損と高磁束密度を両立した電磁鋼板～

- 従来は無方向性電磁鋼板（3%Si鋼板）並みの磁束密度を維持しつつ、**モーターの大幅な高効率化（省エネ）を可能にする電磁鋼板を開発**
- 電気自動車の駆動モータ、家電製品用モータ、ドローンモータなど、**小型化・高速化が進展するモータ分野での適用拡大を目指す**



(20年12月23日リリース)

冷間プレス用1470MPa級高張力冷延鋼板が自動車の車体骨格部品に初採用

<従来1.5GPa級高張力鋼板に用いていた熱間プレス工法>

- 高温への加熱が必要→プレスに必要な工程数増加
 - 単位時間あたりにプレス可能な台数が減少
- **製造コストに改善の余地あり**

<冷間プレス用1.5GPa級高張力鋼板の効果>

- 1310Mpa級と同等の冷間プレス性の実現により、**プレス工程の低コスト化・省エネに貢献**
- 1.5GPa級でも**特に高い降伏強度と耐遅れ破壊特性を両立**

今後も高性能な高張力鋼板の開発に努め、安全で環境にやさしい自動車の開発に寄与し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

31

次に、ESG 課題への取り組みということで、個別のいろいろな案件がありますので、いくつかご紹介させていただきます。

エコプロダクトということで、環境配慮型商品の開発についてですが、上に書いておりますのは、いわゆる電磁鋼板の、高速モータ用の Si 傾斜磁性材料の開発についてでございます。

今、いろいろ電気自動車、あるいは家電等、モータの小型化が求められており、かつ高速化が必要なのですが、そうしていくと鉄損が大きくなってしまいう問題があります。その鉄損を大きく生じさせない商品として開発したものでございます。これによって、省エネ等、環境社会の実現に貢献できるというものであります。

下は、いわゆるハイテンですけれども、冷間プレス用の 1,470 メガパスカル級のハイテンということで、自動車の車体骨格部品に初採用であります。従来、このハイテンについては、熱間プレスでつくられていました。熱間プレスの場合には高温の加熱が必要ということで工程数も増加し、コストに問題があったわけですけれども、これが冷間でできることによって、プレス工程の低コスト化、省エネに貢献できるというものでございます。

JFEグループのエコソリューション（環境配慮型技術の開発）

中国でオイルスラッジ処理の実証事業を開始

(20年12月24日リリース)

- 中国ではオイルスラッジ*は、従来は**排出業者による貯蔵・埋立・廃棄物として焼却処理**
- 近年の**環境に配慮した処理方法のニーズ**の高まり
- 今回の事業により、オイルスラッジを「**オイル**」「**水分**」「**固形物**」に分離し、**無害化**
- 焼却処理した際に比べて**CO₂排出量を削減**し、**コストを安価に抑える**ことも可能
- JFEエンジニアリングは、日本で培った**廃棄物処理事業ノウハウ**を生かしてこの事業に参加

今後も新しいビジネスモデルを探索し、世界各地のニーズを形にすることでSDGsに則した循環型社会の実現に貢献してまいります。

会社名	北京和栄富盛环保科技有限公司
設立	2021年2月（登記予定）
資本金	3,000万元
出資者	北京和栄 66% JFEエンジニアリング 17% 東京センチュリー 17%
事業概要	オイルスラッジの処理事業 オイルスラッジ処理設備の技術開発及び販売

*オイルスラッジ：石油タンクなどの底部に滞積する油分等、製油所から排出される沈殿物。



32

次のページには、エコソリューションということで、いくつか事例を述べます。

これは、まずエンジニアリング事業で、中国でオイルスラッジの処理の実証事業を開始したということでもあります。中国の北京和栄と組んでの実証事業です。製油所等で作られますオイルスラッジは、中国では従来、埋め立てて焼却するという処分をされていました。しかし、中国でも環境問題に配慮するというニーズが高まっていることもございます。中ほどに記載しております通り、スラッジを分類して、無害化することで、CO₂の排出量の削減に貢献でき、且つ、コストも安く抑えることができます。こういったものを目指しての実証事業であります。

エンジニアリングの廃棄物処理事業ノウハウを生かしてこの事業に参加し、ゆくゆくは中国において、いわゆる海外の運営事業として拠点を増やしていくことも念頭に置いて、今回、行うというものでございます。



JFE

JFEグループのエコソリューション（環境配慮型技術の開発）

清掃工場の排ガスからCO₂を回収する実証実験を開始

(21年1月20日リリース)

～ CO₂回収提案の標準化（JFE CCU-Ready）～

- 清掃工場の排ガスからCO₂を回収し、利用する**CCU(Carbon Capture and Utilization 二酸化炭素回収利用)プロセス**の実証実験を開始
- CO₂回収技術に加え、**CO₂の利用技術(ケミカルリサイクル)**についても種々の実証実験を行う予定

- 清掃工場のEPCでは、すでに超高効率発電や全自動化などによる**温暖化ガス排出抑制技術**を確立
- 今後、JFEエンジニアリングが建設する清掃工場は**CCU-Ready Plant (CCU適用準備施設)**を標準とし、さらに地域の状況に合わせ適切な回収CO₂の活用法を提案するなど、**低炭素社会に貢献**



*1)東京都三鷹市と調布市が設立した一部事務組合であるふじみ衛生組合が整備した清掃工場で、JFEエンジニアリングがEPCを担当し、20年間の運営業務も担っている
 *2)回収技術を清掃工場に適用することで、ごみが含有するバイオマス分を合わせ、CO₂排出量を回収量が上回る「ネガティブカーボン」を達成可能となる

次のページは、清掃工場の排ガスから CO₂ を回収するという、これも実証実験でございます。

もともとエンジニアリングの EPC では既に超高効率の発電や、自動化といった温暖化ガスの排出抑制技術は確立しているのですが、これに加えて排ガスから CO₂ を回収して利用する、いわゆる CCU ですけれども、このプロセスの実証実験を開始しております。

この実用によって、EPC からその後の運営事業も含めて、エンジニアリングが建設する清掃工場が全部 CCU-Ready Plant になって、ますます環境負荷を低減するのに貢献できるということがございます。



JFE

JFEグループのエコソリューション（環境配慮型技術の開発）

使用済み紙おむつの燃料化実証設備竣工

(20年12月23日リリース)

現在、一般廃棄物重量の約4%を占め、高齢化の進展とともにさらに増加が見込まれる**使用済み紙おむつ**を、**焼却処理せず、燃料化するなどのリサイクル**を行う

<期待できる効果>

- 可燃ごみの排出量削減
- 焼却灰の埋立量やCO₂排出量の削減
- エネルギーの地産地消



34

次にもう一つ、使用済み紙おむつの燃料化の実証も取り組んでおります。

これは新潟で取り組んでいるのですが、今、一般廃棄物のうち4%はいわゆる使用済み紙おむつとなっております、ますます高齢化の進展に伴って廃棄量が増えると思われています。これを今は全部焼却処理しておりますけれども、焼却せずペレット原料として使って、これを燃料にして、例えば高齢者施設のボイラーを炊くための燃料とすることによって、そもそもおむつを焼却するための燃料であるとか、あるいは施設での燃料を削減することが可能です。

CO₂の排出削減や、ごみの排出の削減という両方の面で役立つ技術の開発を行っているということでもあります。

個別の事例を今回、いくつかご紹介いたしました。



今治造船(株)と共同出資の合併会社「日本シップヤード株式会社」が発足

資本業務提携の概要

- JMUが新たに発行する**普通株式の今治造船(株)による引受け**
(引き受け後の株主構成 JFEHD(株)35%、(株)IHI35%、今治造船(株)30%)
- **営業および設計等を共同で実施する合併会社の設立**
- 仕様統一推進による**マスプロダクト効果の追求**
- ブロック、大物艀装品などの**製造所集約などの生産協力**

合併会社の概要

商号	日本シップヤード株式会社
代表者	代表取締役社長 前田明德 (JMU) 代表取締役副社長 檜垣清志 (今治造船)
事業内容	LNG船を除くすべての一般商船・海洋浮体構造物の設計、販売等
資本金	1億円
出資比率	今治造船 51%、JMU 49%
従業員数	約510名
設立時期	2021年1月1日

36

ジャパン マリンユナイテッドの今治造船との資本業務提携についてというページを付けてございます。36 ページです。

既に発表してございますが、当初予定から3カ月遅れとはなりましたけれども、今年の1月1日にジャパン マリンユナイテッドが今治造船との共同出資の合併会社、日本シップヤード株式会社が発足しました。

業務提携の内容、概要等につきましては、以前ご説明した内容と全く同様でございますので、省略させていただきます。

◆公表時期：2021年5月

2021年3月期決算の公表と合わせ発表予定

◆策定対象期間：

2021年度から鉄鋼事業の構造改革成果がフルに発現する2024年度までの4年間で
7次中期経営計画として策定

38

最後に、第7次中期経営計画についてということで、38ページに1枚付けてございます。

今年の5月に20年度の決算の公表と併せて、第7次中期経営計画を発表する予定でございます。

策定の対象期間でありますけれども、開始年は21年度です。従来、中期は3年間で回してきておりましたが、今回については23年の9月に完了を見込んでいる鉄鋼事業の構造改革の成果がフルに発現してくるのが、その翌年度の24年度であることも踏まえまして、従来の3年間から、今回はこの24年をターゲットにした4年間ということで来中期を策定し、発表させていただきたいと思っております。

私からのご説明は以上でございます。

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。